

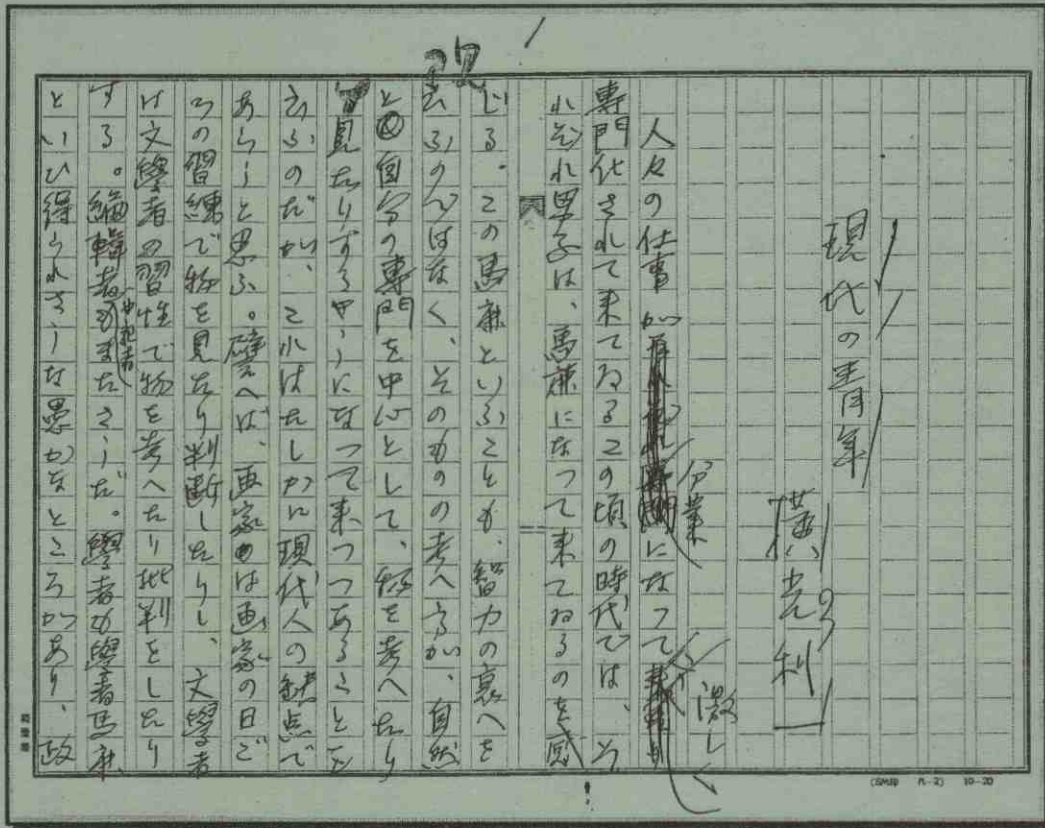
宇佐市民図書館

2004.09

郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679
http://www.usa-public-library.jp/

目次	
◆今月の表紙：横光利一 自筆原稿「現代の青年」(昭10)	
◆「現代の青年」(冒頭)横光利一	
◆龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(28)	
◆新着郷土資料目録・平成十六(二〇〇四)年【8月】	



今月の表紙 横光利一の自筆原稿「現代の青年」(計9枚)の1枚目。昭和10年9月1日発行『婦人公論』に掲載。『定本横光利一全集』第16巻(河出書房新社・昭62)に収録。

4 2 1

現代の青年 (冒頭部分)

横光利一

人々の仕事に分業になって、激しく専門化されて来ているこの頃の時代では、それぞれ男子は、馬鹿になって来ているのを感じる。この馬鹿ということも、智力の衰えを云うのではなく、そのものの考え方が、自然と自分の専門を中心として、物を考えたり、見たりするようになって来つつあることを云うのだが、これはたしかに現代人の欠点であると思う。譬えば、画家は画家の日ごろの習練で物を見たり判断したりし、文学者は文学者の習性で物を考えたり批判をしたりする。編集者や記者もまたそうだ。学者も学者馬鹿といひ得られそうな愚かなところがあり、政治家も政治家らしい馬鹿さがある。

龍膽・小野精一編

大分県人名辞典

本文編 (28)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。

収録人名一覧は、No.7(2000.10)～No.14(2002.5)に記載しました。

うえはら

うえはら・しかぞう 上原鹿造

府内荷場町の人。慶応元年、上原平馬の四男に生まれる。初め大分師範に学び、後上京し、早稲田大学を卒業し、明治二十五年、弁護士となり、東京に開業し、日本弁護士副会長となる。恩師鳩山和夫博士の養女と結婚し、文部大臣鳩山一郎の義兄。進歩党に入り、同二十一年より三度出馬。三十五年当選したが、開院式のまま解散となった。其後、萬歳生命、日本磁器器会社及ホルネラコム、南洋ゴム、成田電気の重役をかね、昭和十年七十一歳で歿した。晩年詩文を嗜み遺吟多し。

(郷誌党人)

うえはら・しゅうけん 上原秋軒

府内藩士。松良右衛門の子。実は岡本主米の子。名五十馬。歌には景敏と称す。時に天保十五年、秋軒十六歳、広瀬淡窓府内侯に聘せられ殿中に講ず。阿部淡斎の仲介にて入門したが、嘉永七年、二十五歳、日田に行き、改めて入門し、安政三年まで修業し、帰って帷を垂れ童蒙啓発に当り、詩画を以て唯一の業となす。歿年不詳。

(大塚)

うさ・きんみち 宇佐公通

公通は平田冠者と称す。大官司公基の男で、寛狭津彦命三十八世の裔。天養元年十二月、大官司となり宇佐郡平田に居る宇佐河西の地灌漑に乏し。公通之を憂い、保元元年、鑿渠の業を起し、宇佐川を引

く。水路延長七里十五丁。灌漑反別千四百町。三十三村の民、今に至て其資を受く。治承四年七月、再び大官司に補せられ、正三位大宰大貳に叙任し、豊州筑州对州を受領す。同年、神領緒方庄司緒方惟栄神物を抑留するを以て公通弁官田部妙盛を遣し之を詰る。惟栄怒り終に兵を挙げ源氏に応ず。公通使を京師に遣わし緒方三郎を始とし臼杵戸次松浦党平家を背き源氏に同心のよしを報ず。

おもいかね心づくしに折れども
うさには物もいはれざりけり

神殿大に鳴動してゆゆしき御声にて

世の中の宇佐には神もなきもの
心づくしに何いのらむ

蓋し平氏窺来りて公通に依れる
なり。緒方惟栄等攻来るの由、其聞

え有ければ、海に浮び、八島に向か
えりと。元暦元年、公通姨田村狐坂

に城郭を構え、惟栄等の来襲に備う。
七月、惟栄、臼杵次郎惟隆等と来り、

攻む。城終に陥る。惟栄等進んで宇
佐に向う。宮中寺院に乱入し、神宝

を犯用し、火を放つて殿舎人宅を焼
く。此間、公通以下神宮横山の山に

逃る。同年二月二日、源範頼、宇佐
に下着し、同五日、奉幣あり、之に

由て神宮僧山林より出て来る範頼社
頭寺院の破損を歎じ、麻布六百三十

は勅使和氣康定奉幣の時、御炊殿に
安置し奉り惟憲の息男下用の一体は
大官司公通自餘の黄金を以て之を奉
献す。頼朝公通が平族を館せるの罪
を責め、男公房に課して東大寺を修
理せしむ。
公通文治四年三月朔日、病で薨す。
かくして安楽院殿関西先守護大官司
正三位豊筑对三州大守天宮公通大居
士という。森山に葬る。其地に寺を
建て追福を為す。金剛山勝安楽院と
云う。
うさみ・はるさぶそう
宇佐見春三郎
弘化元年、日出城下、酒屋の総領
に生まれる。旧藩時代、商会所頭取と
なり、明治になり、初期の県会に推
され、副議長となる。明治二十三年
七月の最初の国会選挙に出馬し、代
議士となったが、其二十五年二月二

月の選挙には広瀬貞文に破られ、二
十七年には別府別荘で五十歳で歿
した。子なく
従弟庄司を嗣としたが、それも次い
で歿し、庄司の子健吉も家を嗣ぐ。
俳句を藤泉と号していた。

(党人郷記)

うの・えんくう 宇野円空

(一八八五)

文博。八幡村尾永井、常盤雄蔵と
いう人の子に湛空天海の兄弟があ
り、檀那寺教覚寺清哲につき僧とな
った。清哲之を愛し、二人ながら養
子として育てた。水崎の円月、博多
の万行で修業させた。湛海は、京都
中京区尊徳寺の住職に聘せられ、宇
野湛空(清定)として本山教師とな
り、本山の教務部で重きをなしてい
た。湛空は明治三十七年五十三歳
で歿したが、其一子円空(明治十八

年生)東大哲学科を同四十三年卒
業し、日本哲学印度哲学を専攻し、
帝大講師となる。次いで東大文学部
助教授に進み、昭和九年、文学博士
の学位を得た。著書に宗教学、宗教
民族学等ある数多ある。昭和二十
四年七月、六十歳で入寂した。

(大典)

うの・えんくう 宇野円空

明治十八年、京都に生まれる。其の
父清定(当年、常盤湛海)は宇佐郡
八幡村尾永井の人。森山教覚寺にて
其兄天空と得度し、後ち京都の尊徳
寺の住職となり、博士円空を生ん
だ。明治四十三年、東大哲学科卒業
し、京都帝大で研究を続け、東京帝
大の教授に任じ、昭和九年、学位を
受け、著書に宗教学、宗教民族学な
どがある。(大典及び宇佐史談)

新着郷土資料目録 平成16(2004)年【8月】

書名/人名/出版社/出版年(月)/請求記号/(備考)

- 西日本図書館学会山口支部報 第4号/西日本図書館学会山口支部/2004.5/A010ニ/(寄贈)
 史料館研究紀要 第9号/大分県立先哲史料館/2004.6/A069オ/(寄贈)
 八幡本宮宇佐神宮と大神氏/小川進一/文芸社/2003/A175オ/(寄贈・複本)
 宇佐郡 院内町 高並 江口家の昔を偲びて/江口隼一/院内:江口隼一/2004.9/A288エ/(寄贈)
 九州・川のみちガイド/北ライフ カルチャー・センター/九州地方計画協会/2003/A290キ/(寄贈)
 ゼンリン住宅地図 宇佐市1980/北九州:ゼンリン/1980/A291.4ウ/(寄贈)
 ゼンリン住宅地図 中津市 下毛郡 1981/北九州:ゼンリン/1980¥1/A291.4ナ/(寄贈)
 伊賀町のあゆみ/伊賀町役場/2004.3/A299.9イ/(寄贈)
 平成16年6月 第三回宇佐市議会定例会会議録/宇佐市議会/2004.6/A314.5ウ/(寄贈)
 軽巡球磨・長良・川内型/学習研究社/2001/A390レ/(寄贈)
 最上型重巡/学習研究社/2002/A390レ/(寄贈)
 大分県全市町村 病院・老人介護施設マップ/大分合同新聞文化センター/2004.8/A490オ/(購入)
 古の文化と豊かな自然/国土交通省九州地方整備局/2002.3/A517コ/(寄贈)
 平成大堰工事誌/建設技術研究所/建設省九州地方建設局/1991.3/A517ケ/(寄贈)
 平成大堰/建設技術研究所/建設省九州地方建設局/1992.3/A517ケ/(寄贈)
 海軍局地戦闘機/野原茂/光人社/2004/A530ノ/(購入)
 大分県のラーメン/おおいたインフォメーションハウス/2004.8/A670オ/(購入)
 郷愁のローカル鉄道耶馬溪線/清原芳治/大分合同新聞社/2004.9/A686キ/(購入)
 大分陸協50年史/大分陸協50年史編集委員会/大分陸上競技協会/2000.1/A782オ/(寄贈)
 月刊「武道」平成11年11月28日発行 12月号/日本武道館/1999.11/A789ブ/(寄贈)
 天才と病人たち/深井津音夫/新風舎/2004/A913フ/(寄贈)
 絆/甲斐幸子/宇佐:甲斐幸子/2004/A916カ/(寄贈)
 カミカゼの真実/須崎勝彌/光人社/2004/A916ス/(寄贈)
 飛行第五十戦隊誌 (上中下)/中島信夫/飛行第五十戦隊戦友会/A916ヒ/(寄贈)

【ファイル入り資料】

- 戦争遺跡 「東京新聞」平成16年8月15日記事/東京新聞/A390セ/(寄贈)
 宇佐海軍航空隊より出撃せる特別攻撃隊員一五四名/高橋昭一/A390タ/(寄贈・1枚)